

第4期多摩区区民会議 第4回コミュニティ部会 議事録

□開催日時	平成25年5月15日(水) 午後6時05分～8時05分
□会場	多摩区役所10階第1002会議室
□参加者	辻野部会長、松本副部会長、大津委員、配島委員、本多委員(以上、コミュニティ部会員) 石橋委員(以上、自然災害部会員)
事務局	門間課長、井川係長、奈良職員
コンサルタント	斉藤研究員、梅田研究員
傍聴者	1名

1 審議テーマの取組内容について

コミュニティ部会検討用シートの「解決の方向・解決策」について事務局から説明があり、「具体的な取組・実施主体」についての議論に入った。

辻野委員長 まず最初に、「(1) イベントカレンダーの作成」について、具体的な取組内容と実施主体について意見を出してください。

本多委員 イベントカレンダーについては、7年ほど前にまち協・文化教育部会で区内の正月から年末までの神社・仏閣に関するイベントをすべて調べたので、それを見れば参考となるものがあるのではないかと。

大津委員 地域教育会議では中学校単位の地域のイベントで拾えるものはすべて拾っているはずだ。すべての地域会議が同じレベルで情報を集めているかどうかはわからないが、そこそこのレベルで地域のイベント情報は集まると思う。

本多委員 イベントの日程は毎年違うので、その年の開催日を調べ直す必要はある。昔は神社の祭礼はどんな曜日であっても、その日に行くと日が決まっていたが、今はそれでは参加できる人が少なくなってしまったため、第1日曜日というように、現代の人が参加しやすい日程に変更されつつある。

石橋委員 人が集まればおのずとそこにふれあいが生まれ、絆がつくられるという視点で考えれば、視野を広くして単に神社や地域の祭礼だけでなく商店街のイベントの情報も入れたほうがよい。

松本副部会長 町内会のイベントは町内会員限定になるので、載せることについては制約があるかもしれないが、商店街のイベントを加えるのは問題ないと思う。

本多委員 こども文化センター、老人いこいの家のイベントも載せるのか、検討の必要がある。

大津委員 長尾老人いこいの家の祭りは地域の人たちだけでいっぱい、これ以上入りきれない実情もある。

松本副部会長 どの範囲までのイベントを載せるかという問題はイベントが集まってきてから決めればよい。

配島委員 イベント情報を集めた後には、イベントをやっている団体に対して、掲載の了解を得るなどの作業が出てくるだろう。参加者限定なら載せてもよいところもあるし、まったく載せてほしくないところもあるだろう。

石橋委員 この部会の問題意識は「現状と課題」にある「あまり地域に出てこない退職男性」に焦点があたっている。集まったイベントについてその視点からさらに考慮するということが必要かもしれない。

本多委員 しかしこのイベントカレンダー作成の目的はあまり地域に出てこない退職男性のた

めだけではないと思う。イベントカレンダーの目的は多世代がコミュニケーションする場づくりだから、対象を限定しなくてもよい。

配島委員 「日ごろ地域に出てくるのが難しい人」の中には、子育て中のお母さんもいる。そういうお母さんが地域のお祭りの子ども太鼓に参加することで、地域に出やすくなることもあるから、地域の許可が出れば地域の祭りを載せられればよいと思う。

大津委員 地域の祭りでは、町内会費を払っている家の子どもに、祭りの最後にお菓子を渡すケースが多い。祭りに参加しても町内会が別で会費を払っていない子どもは、お菓子をもらえないということが出てくる。もらえない子どもにとっては、ショックかもしれない。

松本副部長 町内会では加入していない子どもにまで、なぜお菓子を配るのかという声があるので、そういう問題が起こる。そのあたりは納得してもらうことが必要だ。大人神輿の場合は担ぎ手が減ってきているので、増やしたいところは多い。

大津委員 宿河原は担ぎ手が殺到するため、担ぎ手を規制している。

松本副部長 本来は、町内会の人たちに祭り出てきてもらい、地域の仲間として担ぎ、絆が深まるような神輿にしたいが、若い人たちは忙しくて時間がないし地域への関心が薄れており難しい。われわれの町内会もプロ級の人から担ぎたいとの申し入れがくる。町内の親睦のためにやっている祭り神輿なので、それを前提にこちらの指示にしたがってくれることを念押しして、少数の方に参加してもらっている。

大津委員 多摩区には府中の明神様祭りに会費を払って神輿担ぎと太鼓・笛の練習をし、地元で神輿を担いでいるセミプロ級の人何人もいる。見に来てくれる人が多くなるのはよいが、神輿を担いだり太鼓たたくことには、その地域のやり方があるし、ルールもある。注意が必要だ。

配島委員 多摩区の祭りはみんなで見に行きましょうという祭りがほとんどで、中に一部分参加できる祭りがある。そういうことも事前に調べておいて、部会としての掲載基準を検討し、また、地域の掲載許可を得るなどの作業をしなければならない。

本多委員 祭りに関する内容や注意書きは、中心メンバー一人に聞けばよいわけではなく、数人に聞かなければ全体像がわからない。また、その年によって内容が変わるなど、非常に大変だという経験をした。

辻野部長 そういうことに注意しながらイベントカレンダー作成に取り組むのだが、いつまでにつくるのか。

松本副部長 今年度中にいろいろ集め、いままで話したことを中心に検討するというペースか。いきなり本格的なものをつくるよりもまず情報を集めてどうするかを考える段取りになる。役所関係のイベントは一覧になっているものはないのか。

事務局 ホームページにアップされているもの以外にチラシだけで知らせているものもあり一覧にはなっていない。調査様式を整えて各セクションに照会をかければ、行政が実施しているイベントの情報は集められる。町内会やNPOがやっているイベントは役所の中ではつかめない。

大津委員 地域教育会議（中学校区単位）では町内会のものであれ、団体の行事であれ、大体拾っている。7つある地域教育会議の中で、すべてをきちんと把握しているところと雑なところがあるだろうが、どの地域教育会議でも地域内のイベントは抑えているはずで、イベントカレンダーの元ネタになると思う。

本多委員 まち協では年間の祭事を20件ほど調べているので、データが残っていれば利用できる。地域教育会議は地域によってどれくらいの情報を把握しているか、疑問な点もある。

松本副部長 地域教育会議の7校のうちで情報の濃い薄いはあるだろうと思うが、とりあえ

ず地域の情報としてそれをもとにするという考えでよいのではないか。

辻野部会長 最初から完全なものをねらっても無理があるので、少しずつ進化していけばよいという考え方で臨みたい。地域教育会議でおさえたものとまち協のデータを含め役所がおさえられるものの二つをベースにやっていくのでよいか。

事務局 集めた情報を精査してイベントカレンダーに載せるものを決めた後に残る問題は、どうやって情報を更新するかということと、多くの人にどうやって知らせていくかの二つとなる。結構膨大な量で、見るだけで大変なことも予想される。

松本副部会長 広報の手段をどうするかということだろう。紙の媒体でいくのか、また、それを町内会で回覧するのか、あるいは市の広報にはさむのか。

辻野部会長 それは集めた後の工程で出てくる作業だろう。第一段階は地域教育委員会と役所の二つの方向で情報を集めること、第二段階はそこから載せるべきものをセレクトすること、第三段階はそれをどういう手段で広報するかということという段階をふむことになる。

大津委員 もうひとつ、大事な情報源としてせせらぎ館の情報も拾っておこう。

本多委員 まち協で調べたときには、団体の情報については、あの団体の情報を載せてこの団体の情報はどうして載せないのかという文句が出た。

辻野部会長 そういう反響が来ればむしろ提案の効果があつたと判断することにして、とにかくイベントカレンダー作成に取り組む。

配島委員 イベントカレンダーを作成するので、載せたい情報をお寄せくださいと、市報で広報することもよいかもしれない。

辻野部会長 そうすると寄せられた情報の扱いの問題が出てくるので、一応地域教育会議と役所の情報をベースにして進めたい。次回までに集められるものは集めて、その後の進め方の見通しが立つようにしたい。

石橋委員 各地域教育会議には、会議が出している広報紙を昨年一年分もらおうとよい。

事務局 地域教育会議には地域のイベントを把握したいので1年間の広報紙とそれ以外に参考となるものがあれば出してくださいと要望しておく。

辻野部会長 では次の「(2) 多様な趣味にふれあえるしかけ」と「(3) 農業の切口から地域の絆が生まれるしかけの検討」について意見を出してください。

配島委員 「(2) 多様な趣味にふれあえるしかけ」については、自然災害部会の活動と重なってしまうかもしれないが、たとえば防災の活動に参加してくれないかと数家族に呼びかけ、応じた家族には日を設定して必要なものを持って避難所に駆けつけてもらい、防災にからんださまざまなシミュレーションに楽しく参加してもらおう。ゲーム性のある訓練にしたり、熱心な家族には防災グッズをプレゼントするしかけがあってもよい。

石橋委員 その案は防災フェアの見直しに使えると思う。

辻野部会長 自然災害部会と連動して家族単位のゲーム性を持ったイベントを開催し、そこで新しい家族やいろいろな趣味・関心事とふれあえるようにするということがか。

本多委員 「(2) 多様な趣味にふれあえるしかけ」づくりは非常にむずかしいテーマだ。趣味はひとそれぞれ全然ちがうから、簡単にふれあえるしかけをつくれるわけではない。

大津委員 ここにいるみなさんはみんな生田緑地での活動を含めていろいろ活動していると思うが、趣味ということになるとそれぞれ好きなものが違うから、ふれあいの機会をつくるのはむずかしい。

辻野部会長 生田緑地の区民祭を拡大してもっと多くの区民が趣味にふれあえる機会をつくれないうか。

石橋委員 区民祭で、踊りの会が舞台などで発表しているのを見ることは簡単にできるが、そ

の活動にその場で参加するのは難しい。市民館のギャラリーでもいろいろな発表もしているが、それを見ることはできるが、ふれあうのは難しい。

辻野部会長 このテーマが出てきたのはこども文化センターの活動と老人いこいの家の活動を結びつけて新しいふれあいをつくるとか、いろいろな団体間の活動を結びつけてあたらしい絆が生まれる機会をつくる意味合いがあったと思う。

石橋委員 市民館や各施設で行われている趣味の活動が一堂に会するイベントをやってはどうか。

事務局 市民館では3月に「学びのフェア」という市民館を使っている団体・グループが一堂に会して、館内のいろいろな部屋で活動を発表したり、来た人に参加してもらおう会合を開催していて、それは今みなさんが話された内容にかなり近い。

松本副部会長 すでにやっているのであれば、「学びのフェア」と連携して何かするのがよいかもかもしれない。

配島委員 まだこういう会合に参加したことがない人呼びたい。

辻野部会長 二つの方向性があるって、ここに来ている人同士の連携ができるとよいし、こういう場所に参加する人がもっと増えるとよい。

配島委員 初めて訪ねてきた人が、活動をしている部屋に入るとスタンプを押すようになっていて、何箇所以上訪ねたら、記念品がもらえるようにすれば、増えるかもしれない。

松本副部会長 退職してこういうところに出てこない人をどうやって出てこれるかを工夫する。そのために、やれることはなんなのか。

石橋委員 囲碁・将棋を指す場所を整えるだけでは意味がない。トーナメント方式にして多摩区で一番を決める決め手はどうか。

大津委員 知名度はないがそこそこの指導力がある人を知っているので、指導者としてつれてくることはできる。

辻野部会長 それでは市民館でやっている「学びのフェア」と連携する形で、閉じこもりがちな人が出てくるしかけとして、囲碁・将棋にふれあえるしかけを考えて見たい。

大津委員 市民館でも囲碁・将棋をやっているだろうから、その内容とバッティングしないような形でやるべきだろう。

事務局 「学びのフェア」開催時に、多摩区区民会議主催で囲碁・将棋初級教室のようなもので部屋を取ることができるかどうか、下話程度の打診はしてみる。

石橋委員 「(3)農業の切口から地域の絆が生まれるしかけの検討」は、農業、食育、健康についてそれぞれ分けて取り組むのではなく、三つ組み合わせと一緒にして、たとえばJAが畑で取れたものを使った料理教室を畑のそばで行ってみるのもよいと思う。

本多委員 梨狩をしたあと梨料理に取り組む方法もある。

配島委員 多摩川梨を楽しもうという企画に携わったときに、梨を使って料理するアイデアが出たが、実施することが難しく、最終的に菅JAと考えたのは、いろいろな梨を展示してその梨を使ったクイズをした。用意した梨の名前や重さを当てて、当たった子どもにその梨を上げるというものだが、好評だった。

辻野部会長 ではJAに多摩の農産品をその場で料理する方向で提案するということにしたい。

本多委員 多摩川梨を楽しもうという企画は、期待したほど梨が売れず、JAの持ち出しが大きすぎるという理由でその後中止になったことも、考慮に入れたほうがよい。やるならば財源の確保とか参加者から参加費を取るなどの工夫が必要だろう。

石橋委員 梨だけでなくいろいろな産物で考えたい。

大津委員 のらぼう菜を全国に広めた高橋先生に相談するのもよいかも。また、宮前区ではこどもたちに野菜作りを経験させて、仕上げに収穫して一緒に料理して食べる活

動をして、全国的に表彰された人がいる。どんなやり方をしているのか、ヒアリングするとよいかもしれない。

松本副部会長 飛森谷戸の事例も参考になるだろう。大津さんがふれた宮前の事例と同じものかもしれないが。

大津委員 大分県で漁業に携わっている人たちが、ふだん捨てられる魚を活用して特産品を作ったケースを知っているが、農業でも活用できていない農産物をうまく生かして特産品に育てることができるのではないか。

配島委員 食育の面では捨ててしまう葉っぱや皮を無駄にしないで使う、エコクッキングの視点もある。

辻野部会長 部会に JA の白井委員がおられることから出てきたテーマだから、農業と食育の視点からの活動を、農協が主体となって実施する提案をしていくことにしたい。

では、次に「コミュニケーション能力を育むテーマ」について議論したい。

石橋委員 「(1)あいさつにつながる体操の普及」は、活動している人に話を聞くことが第一だと思う。活動がすでに充実しているのであれば、余計なことを提案してもよくないだろう。もしかすると活動が広がらないなどの悩み事があるかもしれない。「(2)あいさつ運動の展開」は、たとえば地域限定で行うとすれば、それに手を上げてくれる町内会があるかどうか。

松本副部会長 あいさつ運動は手法が問題。地域では防災・防犯であいさつが重要なことはわかっている。それがなかなかあいさつしない。どういう手法ならばあいさつができるかが問題だ。

配島委員 「(1)あいさつにつながる体操の普及」は、公園で体操をしている人たちが子ども会のラジオ体操と一緒に体操するというのはどうか。

松本副部会長 それはよい。とりあえず、公園体操の人たちに朝、子どもたちのラジオ体操に入ってもらって、一緒に体操する。お互い顔見知りになって、あいさつする関係が生まれる。ただ、公園体操の実態を知らないので、ヒアリングは必要だ。

石橋委員 子ども会で毎朝ラジオ体操を復活しようと提言しても、無理か。

松本副部会長 子どもも役員も忙しくて、誰もやらないだろう。子ども会役員は一年交代となっているところが多い。夏休みのラジオ体操は、以前は休みの間毎日やっていたが、あるときから最初と最後の1週間だけになり、いまは最初の1週間だけになった。

事務局 ラジオ体操をやっている公園と公園体操の公園が同じであれば、なんらか連携ができる可能性があるかもしれない。ただし、公園体操の皆さんは介護予防という目的が明確で、やっている体操もかなり特殊な体操で子どもができるものではない。公園体操の皆さんは介護予防という目的が合えば、他と一緒にできるが、そのほかの目的には興味がないかもしれない。

本多委員 私の経験では、町内会でやっていた忘年会にクリスマス会をドッキングしたことで多世代が集まった。忘年会とクリスマス会が一緒ならば、老人と子ども、お母さんたちと高齢者が知り合いになり、地域に住んでいる人たちが一気に顔見知りになった。これまでの町内会の会合を多世代が集まれるものに変えるというのもひとつの手法だと思う。

辻野部会長 あいさつ運動の展開は、いま本多さんから意見が出た、町内会の会合を多世代型にすることをひとつの提案としたい。

今日検討した具体的な取組内容は市民館の意向を聞くとか JA に動いてもらうとか、実施主体との検討に時間がかかるものが多く、こちらの提案が受け入れられない可能性もなしとはいえない。次のステップに行くのに修正が必要なものが出てくる可能性もあり、早め早めに検討したほうがよいと思われる。6月中に次の会合をすることにしたい。ま

た欠席する委員からは、意見をメモにまとめて出してもらいたい。

2 その他

〔多摩区子ども区民会議〕

多摩区市民館デーの中で開催する「多摩区子ども区民会議」(8月25日(日))の概要を事務局が説明し、参加協力を呼びかけた。

3 スケジュール

次回第5回部会は、下記を候補日として、部会委員に事務局が出欠を問い合わせ、出席委員が一番多い日に開催する。

【候補日】

- 平成25年6月28日(金) 18:00～

以上